

2019 年度 第 2 回監査結果報告書

1. 日 時：2020 年 3 月 2 日（月）午後 1 時 30 分～午後 4 時 10 分
2. 場 所：院長応接室
3. 監査委員：橋本廸生（委員長）、棚瀬慎治（委員）、岩本 裕（委員）、落合和徳（委員）
4. 対象期間：2019 年 4 月～2019 年 9 月分
5. 実施方法：資料提出に基づく医療安全体制および実業務をヒアリング
6. ヒアリング対象者：

井田 博幸／病院長
瀧浪 将典／医療安全管理部門長（医師）
大城戸 一郎／医療安全推進部長（医師）
小菅 誠／医療安全推進部副部長・医療機器安全管理責任者（医師）
佐藤 恵／医療安全推進部副部長・医療安全管理者（看護師）
北條 文美／医療安全管理者（看護師）
廣瀬 俊昭／医薬品安全管理責任者（薬剤師）
平塚 明倫／医療機器安全管理実務担当者（臨床工学技士）
岩谷 理恵子／臨床工学部（臨床工学技士）
影井 淳子／医療安全推進部（事務員）
石垣 秀城／医療安全推進部（事務員）
楠本 靖幸／医療安全推進部（事務員）

7. 報告事項

1) 前回の指摘事項に対する改善状況について

(1) 非常勤医の研修会出席について

非常勤医が常勤で勤務している病院での受講状況を確認し、未受講率を下げる方策を推進するとともにe-learningを整備して受講機会を拡大していただきたい。

【改善状況】

- ①e-learning システム導入に向けて、現場スタッフが利用しやすい仕様にカスタマイズするよう担当部署を通してメーカーに依頼済である。
- ②運用のルールや現場への周知方法も並行して進めている。
- ③今年度中に非常勤医師を対象として試験運用を計画している。
- ④非常勤医に対して他施設での研修受講を調査・確認している。

(2) インシデント・アクシデント報告件数について

医師からの報告、特に研修医からの報告件数が増加するよう取り組みいただきたい。

【改善状況】

- ①研修医・レジデントらの報告件数増加を図るために、各種研修会（研修医対象オリエンテーション、シミュレーション研修、レジデント対象研修など）の場で対象者に直接説明し、入力を促している。
- ②2018 年度より当院の研修修了要件として、年間 2 件以上の報告を義務付けている。

(3) 4 病院相互ラウンド・合同セーフティマネジメント会議について

附属病院以外のレベル向上も考えるのであれば、法人として明確に位置付けるべきであり、議事録の内容も附属 4 病院間で共有していただきたい。

【改善状況】

- ①法人としての位置付について検討したが、病院が管轄することが望ましいとの結論となった。
- ②各病院のセーフティマネジメント会議の議事録共有は、2020 年 1 月開催分より開始した。

(4) 再手術症例検討ワーキングについて

避けられないリスクについては、事前にインフォームド・コンセントにしっかり含めて、リスクの回避とともに経費削減にも努めていただきたい。

【改善状況】

- ①手術における合併症のリスクについては、医療安全推進部主催の事例検討会で確認しており、不備があればその都度当該診療科にフィードバックし修正を依頼している。

(5) ハンドオフシートワーキングについて

現場が有用性を実感しているのかを確認し、作成率の向上を目指していただきたい。

【改善状況】

- ①現状の問題点を現場に確認したうえでシステム改修を進めており、今年度中の改修を予定している。今後の運用方法についてもより具体的に検討していく予定である。

(6) スタットコール・RRS に関するフィードバックについて

RRS については、コールする側に対する教育を早期に実施し、課題となっている側（現場）の遠慮を解消していただきたい。

【改善状況】

- ①スタットコールと RRS を適切に使い分けることよりも、いずれかを利用し第三者の介入を含めて人を集めることに意義があるため、フィードバック会議を通じて総合的に判断している。
- ②RRS がスタットコールより少ない理由は基準の問題ではなく、主科とのコミュニケーションにあると捉えており、その点に対するコンフリクト解消に焦点をあててフィードバック会議を行っている。

(7) チューブトラブルワーキング

コネクターの導入に際しては、院内一斉に誤接続防止の新しいチューブに切替えることが理想であるが、旧式の在庫と併用する場合は現場が混乱しないような運用を策定していただきたい。

【改善状況】

医療機器安全管理責任者のもと消耗品管理担当者が主となり、運用案の策定と切り替え作業を行っている。進捗状況については医療機器安全管理作業部会にて確認している。

8. 監査結果

1) 2019 年度上半期の医療安全管理体制について

- (1) 医療安全推進に関する委員会、ワーキンググループ等の名称については、作業部会、ワーキンググループ、委員会、チーム等と異なる名称が複数存在している。
組織図に記載された名称から第三者が活動の実態、機能が理解できるように名称の再考と統一をご検討いただきたい。

2) 2019 年度上半期医療安全活動状況について

- (1) セーフティマネジャー会議については、会議の内容が伝達のみでなく、出席者がポジティブに参加できるように開催内容を検討していただきたい。
- (2) 高難度新規医療技術については、実施しようとする治療、処置等が高難度新規医療技術に該当するか否か判断できるよう、診療科へ周知する方策を検討いただきたい。
- (3) 未承認薬新規医薬品については、患者向けの公開を検討いただきたい。
- (4) 医療安全院内研修会については、研修内容を厳選するとともに重要事項の伝達には時間をかけること、それでも不足する場合は追加開催を検討し、重要度が低い場合はe-learning とする等内容に応じた組み合わせを検討していただきたい。
- (5) 医療機器安全管理作業部会については、医師の理解が得られるように医療機器に関わる研修会受講の重要性を周知いただきたい。
- (6) 4 病院相互ラウンド・合同セーフティマネジメント会議については、法人としての位置付を明確にしてアクティビティを高めていただきたい。
- (7) スタットコール・RRS に関するフィードバックについては、効果の検証をどのような項目で評価するのかを検討いただきたい。

以上